

平成29年度鳥取県自主防災組織等知事表彰に係る被表彰候補者の功績概要

表彰区分	推薦者	被表彰候補者 (活動開始年月)	功績概要
功績表彰 (団体)	倉吉市長	(倉吉市) 大原自治公民館 (昭和64年1月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年10月の鳥取県中部地震発生後、数時間後に対策本部を設置し、住民の安否確認や被害状況の確認を行った。 集落内の民間福祉施設に高齢者の一時避難を要請し、不安がる高齢者の宿泊先の確保に努めた。(施設側も快諾) 集落内において炊き出しを実施。 集落内の左官・大工経験者を中心とした10数人のブルーシート張りボランティア隊を結成し、被災した住宅のブルーシート張りを実施。 鳥取県中部地震発生以前から防災訓練を実施するとともに、日頃から野菜をもらい合うなどの隣近所同士の支え合いが確立していたことが、災害時の迅速かつ的確な対応に繋がった。
功績表彰 (団体)	鳥取県知事	(湯梨浜町) 三八市実行委員会 (平成22年)	<ul style="list-style-type: none"> 三八市の打ち合せ中に鳥取県中部地震が発生。 昼間は地元の若い人が少なく、中堅は消防団等にかり出されて不在だったため、三八市実行委員会のメンバーが、移住者と協力して近隣の高齢者宅等へ声をかけて三八形広場に一時避難。その際、同広場に椅子を設置するとともに車椅子を提供した。 広場近くの家屋から瓦が落ちると危険であったため、更に、広場から東郷池の周辺に避難することを決め、徒歩による移動が困難な高齢者を車に乗せて移動した。
功績表彰 (団体)	北栄町長	(北栄町) 国坂浜自治会 (平成21年4月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年10月に発生した鳥取県中部地震の際、発災直後から防災本部長(自治会長)をはじめ役員が中心となり、自治会員の避難支援や、一時避難所における的確な対応を行った。また、北栄町役場と調整を行い、水・食事の確保(町支給場所から運搬)など、積極的な共助の取組を実践した。 更には、万一の災害に備え、訓練、防災用品備蓄及び防災関係設備整備を進めてきたが、地震災害に対する有用性が見込まれるとして、独自に整備したビニールハウス(通称「ふれあいドーム」)も中部地震発生時にその長所が十分に発揮されるなど、災害を想定して訓練と備えを積み重ねた成果が結実した。 広報活動も充実しており、今回の地震における活動記録を詳細に記録することで、将来の災害対応の参考になることはもちろんのこと、自治会員への防災意識向上のための啓発資料となることが期待されている。
功績表彰 (団体)	鳥取県知事	鳥取県防災・砂防ボランティア協会 (平成24年6月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年10月21日に発生した鳥取県中部を震源とするマグニチュード6.6の地震において、発生翌日から震度5強以上を観測した市町の土砂災害危険箇所306箇所を延べ26名により、県職員と連携して地震後5日間で緊急点検を実施し、住民へ二次災害防止への注意喚起を迅速に行った。
功績表彰 (団体)	鳥取県知事	(倉吉市) 昭和町自治公民館 (平成23年2月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年1月、2月と倉吉市で観測記録を更新する大雪の最中、早朝から日没後まで、多い日は一日11時間の除雪を行い、除雪距離は延べ30kmにのぼった。 これにより、倉吉駅が所在する上井地区と市役所が所在する倉吉市街地を結ぶ幹線道路における歩行者の安全が確保されただけでなく、県立厚生病院や倉吉未来中心といった公共施設周辺の歩道が除雪されるとともに、倉吉市立上灘小学校の通学路を除雪し、児童の通学の安全が確保された。
功績表彰 (団体)	国土交通省	(岩美町) 蒲生集落 (不明)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年1月の大雪発生時、国道9号線の岩美町馬場において、立ち往生した車両に対し、自主的におにぎり、ゆで卵、味噌汁100人分の炊き出し支援を行った。

表彰区分	推薦者	被表彰候補者 (活動開始年月)	功績概要
功績表彰 (団体)	智頭町長	智頭町大内集落 (不明)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年1月に発生した大雪による国道373号線における立ち往生の際、地区の集会所である「大内コミュニティセンター」を一時的な休憩所として開放するとともに、炊き出し等を行い、おにぎりや味噌汁等の物資の提供を同センターと国道において行った。 また、体調不良を訴えた人を引き取り、救急車を呼ぶなど、地区が一丸となった救援活動を2日間に渡り行った。
功績表彰 (団体)	国土交通省	智頭町大字早瀬集落 (不明)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年1月に大雪が発生した際、国道53号線(早瀬地区)における立ち往生車両に対して、自主的に食料の提供やトイレの提供を行った。
功績表彰 (団体)	鳥取県知事	(三朝町) 賀茂地域協議会 (平成20年4月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年1月、2月に県中部で観測記録を更新する大雪が観測される中、多い日は一日3時間の除雪を行い、除雪距離は県管理道路のみで延べ10kmにのぼった。 これにより、三朝町立西小学校及び三朝中学校の児童・生徒の通学の安全が守らればかりでなく、三朝町の中心部の幹線道路における歩行者の安全が確保された。
功績表彰 (団体)	湯梨浜町長 国土交通省 中国地方整備局長	(湯梨浜町) 宇谷区 (平成26年6月以前)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年2月の大雪発生時において、国道9号線で立ち往生した車両に乗っている方に、集会所を開放し、トイレや休憩所を提供した。 区民26名で、おにぎりや豚汁の炊き出しを行うとともに、お茶も提供した。また、区民自ら炊き出しの周知を行った。
功績表彰 (団体)	湯梨浜町長 国土交通省 中国地方整備局長	(湯梨浜町) 原区自主防災会 (平成21年12月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年2月の大雪発生時において、国道9号線で立ち往生した車両に乗っている方に、集会所を開放し、トイレと休憩所を提供した。 地区内の各世帯に支援を呼びかけ、おにぎりやお茶をドライバーに提供するとともに、集会所の利用を呼びかけた。
功績表彰 (団体)	鳥取県知事	(湯梨浜町) 長和田区 (平成15年9月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年1月、2月に県中部で観測記録を更新する大雪の最中、多い日は区内の住民79名が参加して幹線道路の除雪を行うなど、地区を挙げて活動した。 これにより、幹線道路における歩行者の安全が確保された。
功績表彰 (団体)	鳥取県知事	(琴浦町) 聖郷小学校PTA (平成26年9月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年1月、2月に県中部で観測記録を更新する大雪の最中、多い日は一日7時間の除雪を行い、除雪距離は県管理道路のみで延べ10kmにのぼった。 これにより、琴浦町立聖郷小学校の児童の通学の安全が守らればかりでなく、琴浦町内の東西方向、南北方向の幹線道路における歩行者の安全が確保された。
功労表彰 (団体)	鳥取市長	(鳥取市) 美保南まちづくり協議会 (平成20年12月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年9月の大雨により大路川が増水して避難勧告が発令され際、地域の防災対策を危惧する声が高まる一方で、勧告による避難者は少数であった。県が実施したアンケート結果を踏まえ、「美保南地区災害の手引き」、「美保南地区総合防災マップ」を作成し、地区全世帯に配布するなど啓発活動に積極的に取り組んだ。 地域を災害から守るためには、地域が一体となった「共助」が不可欠であるという認識のもと、「地域版防災計画」を策定し、防災活動の一層の推進を図った。 昼夜の人口が異なる職住分離地帯となっており、地域防災力の向上にあたっては、女性の協力が不可欠であるという認識のもと、まちづくり協議会女性会を通じて女性による防災力の向上に努めている。 近年各地で発生している災害の状況から、発災初動期における避難所開設が課題となっており、平成27年度作成した「美保南地区避難所運営マニュアル素案」の成一案化に向けた取組を行っている。

表彰区分	推薦者	被表彰候補者 (活動開始年月)	功績概要
功労表彰 (団体)	米子市長	(米子市) 河崎新田地区自主防災会 (平成13年10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・防火に対する意識が高く、防災会で独自の可搬式消防ポンプ。毎年数回は機器の点検も兼ねて放水訓練を実施し、防火マップに地区内の消火栓や消火ホースの位置、消火ホース長を考慮した消火可能場所なども明示している。 ・防災訓練は、年間に2～3回実施しており、消火栓および消火器を使用した消火訓練やリヤカー・引手付きの車椅子等を使用した避難訓練、原子力災害を想定し、市の計画に沿った避難訓練など様々な内容の訓練のほか、グループワークを行い、テーマについて積極的に意見を出し合うなど先進的な活動を行っている。 ・その他、防災マップを作成しており、地区内の65歳以上の独居世帯や障がい者世帯等の要支援者の情報を盛り込んでいるほか、支援者についても取り決めている。
功労表彰 (団体)	米子市長	(米子市) 永江地区連合自治会 (平成15年4月)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年前から、認知症を患った人が行方不明になった際の捜索訓練を毎年、警察や市、社会福祉協議会等と連携して行っている。この訓練を毎年行うことで、各々の防災組織・自治会の緊急連絡網の確立や防災行政無線が流れた際に聞く工夫をする人が増えるなどの成果が出た。 ・近年発生する災害に対応するには、単一の自主防災組織には限界があるという考えから、同連合会の下、平成28年10月永江地区防災安全協議会を設立。自主防災組織が未結成の自治会は自治会として加入しており、地区全体で防災活動をしている。 ・地区内の住人が一目でわかる地図の作成や防災訓練を毎年数回実施しており、水消火器等を使用した消火訓練や炊き出し訓練、消防署員及び日本赤十字社の派遣講師から救急救命講習を受けるなど活発に活動しており、今年は、総合防災訓練を実施する予定。
功労表彰 (団体)	倉吉市長	(倉吉市) 穴田自治公民館 (平成17年1月)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年1月1日に自衛消防団を結成し、同年1月4日に、市に自主防災組織として登録。 ・平成26年から鳥取県の住民主体防災体制構築支援事業のモデルとして指定を受ける。 ・避難訓練・炊き出し訓練、防災講習等の様々な防災訓練を積極的に実施。 ・住民主体で防災マップ、支え愛マップを作成。要支援者に配慮した上で、地域住民の災害時における避難想定を行い、防災訓練等にも反映。
功労表彰 (団体)	湯梨浜町長	(湯梨浜町) 長瀬中央区自主防災会 (平成13年12月)	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の防災訓練等を企画立案し実施している。また、各班の役割を明確化し、初動体制を確立するとともに、区民参加型訓練を行い、地域住民の防災意識の高揚に努めている。 ・防災会設立後、毎年3回の防災訓練等(防災講習、初期消火訓練及び避難訓練)を実施し区民の防災意識への認識は深まっている。 ・特に平成29年度は、平成28年10月21日に発生した鳥取県中部地震の教訓を踏まえ、鳥取県自主防災活動アドバイザーの指導の下、避難所開設運営の模擬訓練(HUG)に取り組み、効果を上げた。
功労表彰 (個人)	米子市長	(米子市) 秋田 治 (平成24年4月)	<ul style="list-style-type: none"> ・同氏は、教育者の立場から生徒たちに、将来どの地域に所在していても適切な災害対応ができ、自分の命が守れるよう知識だけではなく実体験を通じて学ばせる防災教育を実践している。 ・防災訓練では、従来の手法を見直し、様々なシチュエーションを想定して行うことにより、より現実味を持たせ、生徒が多様な対応ができるようにしているほか、地域住民やPTA役員と連携した訓練を行うことで地域の防災力向上にも多大な貢献をしている。 ・また、教育課程の中に独自の防災教育カリキュラムを盛り込み、授業では災害発生メカニズムや放射線の測定など幅広く正しい知識の習得をさせているほか、修学旅行の行き先には必ず防災関連施設を含めることを計画するなど、趣向を凝らした防災教育を実施している。平成28年10月に発生した鳥取県中部地震においては、学校が防災拠点となっていることから、市内で唯一生徒たちを下校させずに学校に待機させる対応を取り、より安全に配慮した災害対応を実践した。